

(別紙 8)

京都府におけるジビエ利用拡大等のための狩猟捕獲支援に係る評価報告

1 現状の狩猟の状況及び課題、本事業実施の必要性等

<p>・現状の狩猟の状況及び課題： 京都府第二種特定鳥獣管理計画に基づき、ニホンジカ（指定管理鳥獣）の個体数管理を推進するため、登録狩猟における捕獲頭数の拡大が求められている。しかし、現状の登録狩猟においては、以下の問題が存在する。 ①捕獲個体の受け入れ先となる施設の数と処理規模が限られているため、狩猟者は捕獲個体の処理を主に埋設に頼らざるを得ず、労務負担が大きい。 ②ジビエ施設への集積が進んでおらず、捕獲個体の有効活用が十分に図られていない。</p> <p>・本事業実施の必要性： 登録狩猟における捕獲頭数の拡大を図るため、本事業では、以下の取り組みを実施する。 ①安心・安全な取扱いとして国または府の認証を受けたジビエ施設を新たな受け入れ先とし、捕獲個体の集積を進める。 ②ジビエ施設への捕獲個体集積業務を委託することで、狩猟者の労務負担を軽減し、狩猟捕獲数の拡大を目指す。</p>

注 1：直近 2 カ年程度の対象種の狩猟の実施状況（捕獲数、増減傾向、総捕獲数に占める割合等）や、ジビエ利用拡大のための支援を実施する場合は、狩猟全体におけるジビエ利用数と傾向を記入するとともに、現状を踏まえた狩猟の課題、本事業実施の目的・必要性を記入すること。

注 2：事業実施後の評価報告においては、当該年度の狩猟の状況を記載すること。

2 取組内容・実績

(1) ジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援

ア 狩猟捕獲経費の支援

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
目的・目標	目的：狩猟者の捕獲個体処理負担の軽減、ジビエ利活用の拡大 実績：ニホンジカ 207 頭
支援捕獲数及びその考え方（算出方法等）	対象施設へ集積可能な捕獲個体数量
実施体制（受託者名等）	国産ジビエ認証制度又は京都府中丹地域における野生鳥獣肉生産工程管理制度の認証を受けている施設
効果	狩猟者の捕獲個体処理負担の軽減、ジビエ利活用の拡大
評価方法	捕獲個体搬入記録の確認、第三者評価等により評価
事業費及びその考え方（算出方法等）	対象施設へ集積する捕獲個体予定数量をもとに、オス 9 千円、メス 10 千円を処理単価上限として算出した
その他	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注 2：1 の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注 3：実施区域の位置が分かる地図を添付すること。

イ 処理加工施設における取組

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
目的・目標	狩猟者の適切な搬入体制の構築
実施体制（受入施設名）	国産ジビエ認証制度又は京都府中丹地域における野生鳥獣肉生産工程管理制度の認証を受けている施設
実施内容	狩猟者を対象とした衛生的な捕獲個体搬入方法の説明会、捕獲個体搬入時の搬入規則説明等
持ち込み狩猟者数	35名（18名+17名）
受け入れ捕獲個体数（種別）	207頭（100頭+107頭）
廃棄物処分量及び算出方法	対象施設へ集積した捕獲個体数量
効果	ジビエ利活用の拡大
評価方法	捕獲個体搬入記録、説明会実施資料、第三者評価等により評価等により評価
事業費及びその考え方（算出方法等）	説明会に係る事務費をもとに算出

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注3：「実施内容」には講習会等の指導内容、開催回数、参加人数等について、見込み又は実績を記入すること。

(2) 捕獲強化のための狩猟捕獲支援

ウ 狩猟捕獲経費の支援

指定管理鳥獣名	
目的・目標	
支援捕獲数及びその考え方（算出方法等）	
実施区域	
実施体制（受託者等）	
効果	
評価方法	
事業費及びその考え方（算出方法等）	
その他	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注3：実施区域の位置が分かる地図を添付すること。

エ 処分施設等における取組

指定管理鳥獣名	
目的・目標	
受入施設名	
処分方法	
持ち込み狩猟者数	
受け入れ捕獲個体数（種別）	
処分量	
効果	
評価方法	
事業費及びその考え方（算出方法等）	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

3 2の取組による効果や評価と今後の課題等（事業終了後の評価報告時のみ）

本事業により、国の認証を受けたジビエ処理施設への捕獲個体の集積を進め、狩猟者の処理負担の軽減とジビエ利活用の拡大を図ることができた。具体的には207頭のニホンジカが適切に処理施設へ搬入され、当初目標を達成したことから、狩猟捕獲の促進に一定の効果があつたと評価できる。

また、搬入に係る説明会の実施等により、延べ35名の狩猟者が適切な搬入方法を理解し、処理施設への持ち込み体制の構築が進み、従来は埋設処理に依存していた個体の一部が有効活用へと転換され、ジビエ利用の拡大にも寄与したと考えられる。

一方で、今後の課題としては、受入施設の地理的偏在や処理能力の制約により、すべての捕獲個体を効率的に搬入できているとは言えないことや、狩猟者によって搬入対応や衛生管理に差があり、さらなる技術指導や周知が必要であることが挙げられる。

注：2の取組による効果や取組の評価を具体的に記入すること。記入の際は、特に2の目的・目標、効果、評価方法を踏まえること。

また、評価等を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

--

注：特記すべき事項があれば記入すること。

